地域支援だより

秋田県立ゆり支援学校地域支援部
第４号　R8.11月発行

地域とともにつくる未来へ向けて



秋田県立ゆり支援学校　教頭　冨樫　真雄

日頃より本校の教育活動並びに地域の特別支援教育の推進に、御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

特別な支援を必要とする児童生徒へのニーズが増加する中、今年度も本校が担うセンター的機能におきまして、地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校や関係機関の皆様から数多くの御活用をいただいております。また、7月に開催いたしました特別支援教育研修会では、対面・オンデマンド合わせて約100名もの御参加をいただき、一人一人に応じた支援に対する関心の高さを改めて実感いたしました。

本校のセンター的機能には、指導や支援に関する相談への対応だけでなく、地域の皆様と共に「障害理解」や「多様性理解」を推進していく大切な側面もあります。そのため、本校では教員対象の研修会をはじめ、居住地校交流や学校間交流といった「交流及び共同学習」を通じ、互いを知り、支え合う機会づくりを進めております。本校の児童生徒を含め、特別な支援を必要とする子どもたちの多くは、これからもこの地域で生活していきます。子どもたちが自分らしく豊かに育ち、安心して暮らしていける地域社会を築くため、地域に唯一の特別支援学校として、今後もセンター的機能の役割を果たしてまいりたいと考えています。

本校は「地域とともに歩み、地域で育ち、地域に必要とされるゆり支援学校」を目指す学校像として掲げております。共生社会の実現に向け、これからも家庭や地域の皆様との連携を密にしながら教育活動に取り組んでまいりますので、今後とも御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

インクルーシブ教育の推進に向けて

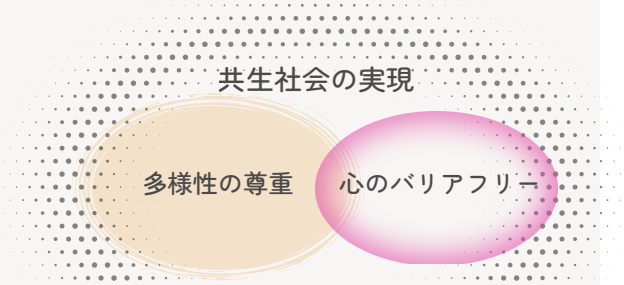
インクルーシブ保育・教育とは

「みんなちがってみんないい」



障害のある人もない人も共に学ぶ仕組み

障害の有無や発達の特性、性別、国籍、家庭環境など、一人一人の違いを尊重しながら、すべての子どもが同じ場で安心して生活したり学んだりしながら、自分らしく成長できるように環境を整えていくという考え方です。一人一人に違いがあり、いろいろな考え方があるけれども、互いを尊重し、協力し合って生きていけるよう、様々な人と関わる場を作っていくことが、多様性の尊重や理解につながっていきます。



参加できる環境の工夫を考える

場面①　朝の会　注意散漫・集団活動が苦手

- 刺激を調整する
- 仕切りで安心できる場所を用意する
- 会の流れを写真やイラストで提示する
- 参加の仕方（指差し、カード、手拍子、楽器）を複数用意する
- 部分的な参加を認める



それぞれの方法で無理なく参加

場面②　制作　手先の操作が苦手

- 使いやすい道具（太いクレヨン、持ちやすいはさみ）を子どもの実態に合わせて選択する
- シール貼りやスタンプ押しなど、できる活動を複数用意し、選択できる活動を準備する
- 完成形を複数示す



完成品を同じにするのではなく道具や素材を柔軟に

学校見学会の報告 ～学校間の連携と切れ目ない支援を目指して～

高等部の学校見学会を実施し、地域の学校関係者の方々にご参加いただきました。当日は、本校の授業の様子を見学、生徒一人一人の個別の教育支援計画について具体的な情報共有や意見交換を行いました。



アンケートより、大変貴重なご感想をいただきましたので一部をご紹介します。

・校種が変わっても生徒の成長を継続して支えるためには、学校間で情報や支援の在り方を共有することが大切だと改めて感じた。
・高校においても教員自身が「どう支援したらよいか」という困り感を抱えることがあるため、各校の特別支援コーディネーター等が集まり、悩みや支援の工夫を共有・相談できる場が今後あるとよいと感じた。

「教員にとっても安心して相談できる環境づくり」という視点は、これからの地域支援において非常に重要です。今回の見学会での気付きを活かし、学校間・関係機関との連携をより一層深め、生徒たちへの支援の幅を広げていけるネットワークづくりに努めてまいります。

自立活動コーナー

教育活動全体を通して行われている自立活動の紹介

1　対象生徒の実態

・人と関わる場面で**受け身**でいることが多い。
・**家庭では流暢に話す**が、学校では聞かれたことに答えることが多い。
・**自分から気持ち等を話すことがほとんどない**が、内言語は豊富である。
・３つまでの選択肢を提示すると自分の考えに近い方を単語で話して伝える。
・発表などの**人前で話すことが苦手**。自信のなさからか教師の顔を見ながら話す。
・朝・帰りの会など毎日繰り返す場面の司会は、原稿の読める平仮名を手掛かりに進行する。
・単語の途中で区切ったり語尾まで言い切らないうちに話し終えたりする。
・平仮名読みは曖昧な文字が多い。

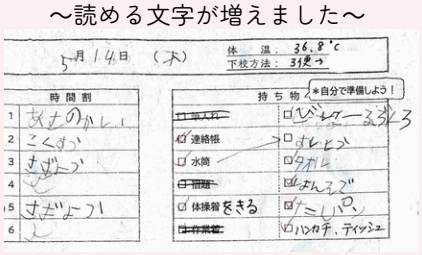
2　自立活動の目標

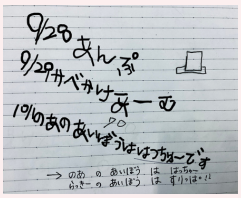
・自分の気持ちを教師に話して伝える。
・文字と音を一致させ、読める単語を増やすことで、発表場面等で原稿を見て一人で話す。

3　指導内容

・興味のある内容について問い掛けたり共感したりして、友達や教師と話す場面をつくる。
・記入場面で単語の音順を平仮名表で確認して書き、読める単語を増やす。

毎日記入した連絡帳
～読める文字が増えました～





家庭で書いてきたメモ
～教師や友達と話すきっかけになりました～

4　生徒の変容

・学習活動全体で**書字のスピードがアップ**した。
・読める文字が増えたことで、朝の会等の**司会を、表を見て一人で進める**ようになった。
・家族の協力も得て、本人が伝えたいことを家庭でノートに書き、学校での話題作りに活用し、問い掛け、共感することで**話題について自分から話すことが増えた**。
・興味のある内容だけでなく、**学校生活で挙手して発表しようとしたり、話す声が大きくなったりした**。

いつでもお気軽にお問い合わせください

教育専門監等の派遣依頼文の様式は、ゆり支援学校ホームページからダウンロードできます。

教　頭　　髙橋基裕　冨樫真雄
教育専門監　　太田清子
地域支援部主任　佐々木弘美
特別支援教育アドバイザー　近藤千晴
特別支援教育地域センター
・火、金曜日　9：00～15：45　本荘東小学校内
TEL　0184-24-1236
・木曜日　9：00～15：45　岩谷小学校内
TEL　0184-65-2220（特別支援教育相談ルーム）

ゆり支援学校相談窓口
TEL　0184-27-2631
E-mail yuri-s@akita-pref.ed.jp
HP　http://www/yuri-s.akita-pref.ed.jp



【地域支援だよりで取り上げてほしい内容等ありましたらこちらの二次元バーコードを読み取りご記入ください】